

< 前回 > 宗教研究の方向付け (新宗教論)

(1) 宗教ブームの分析 宗教現象と社会との相関関係、宗教現象の多様性・流動性

(2) 宗教研究の課題

宗教現象の動的な変化を理解するのに必要な宗教概念の形成 広義の宗教

宗教とは何か

宗教現象を、機能・構造・プロセスから分析する モデルの形成

宗教現象をいかに整理するのか

宗教から人間を見る。宗教はなおも現代人にとって意味があるのか。

宗教の存在意味は何か

キリスト教は現代人の問いにどのように答えるのか。

キリスト教はどこに向けているのか

(3) < 宗教は社会・人間の鏡である >

入信動機の変化 (宗教と欲望) / 無境界化 / 小集団志向 (小さな神々)

2 現代宗教学と宗教現象のモデル化

2 - 1 : 現代宗教学とその諸前提

1. 宗教は科学ではない。しかし、宗教学は科学的であり得る。

2. 広義の宗教学の現代宗教学 (科学としての宗教学)

現代宗教学 (宗教の経験科学): 宗教はどのようなものとして存在してきたのか

宗教哲学: 多様な宗教現象に同じ宗教という言葉が適応できる根拠は何か

宗教を宗教としているその本質は何か、

神学: 宗教にも様々あるが本当の宗教あるいはあるべき宗教とは何か

3. 科学とは何か、あるいは科学はいつ科学となったのか。

啓蒙主義的な科学理念 (実証主義的科学理念) と科学の自立: 19世紀

経験諸科学の成立: 歴史学、文学批評、経済学、法学、心理学、現代宗教学

大学の変貌

2 - 2 : 宗教現象のモデル化

4. 現代宗教学の前提 (現代宗教学の科学性とは?)

(1) 現象から原理・構造へ: 経験から出発する

(2) 価値中立性: 偏見を捨てる・結論を急がない

(3) 全体論: できるだけトータルな視点に立つ

< 補足 > ・完全な中立性・客観性は成り立つか

・コミットメントの必要性、部分的で暫定的

・相互主観性

・還元主義批判

5. 「仮説と検証」: 仮説 データ収集 記述・整理 分析・理論化

検証・仮説の修正

6 . 宗教現象のモデル化の必要性

- ・ 多様な現象へのアプローチするための仮説的モデル
- ・ 宗教現象を分析する4つの軸（視点） 4次元モデル
構造 / プロセス / レベル / 深度
- ・ 宗教現象の基本構造：
典型例「キリスト教徒は日曜日ごとに教会で神を礼拝する」
「SはMにおいて / Mを通してOを信じる」（「S - M - O」モデル）

<文献>

イーグルトン 『文学とは何か』（岩波書店）

「文学に関するもろもろの定義が現在のようなかたちをとりはじめたのは、実のところ、「ロマン主義の時代」以降のことだ。「文学」という言葉の中に現代的な意味が発生したのは十九世紀なのだと言ってもよい」（30頁）

Letter から Literature へ

土屋博 『教典になった宗教』（北海道大学図書刊行会）